

カテゴリ: サステナビリティ

宮崎空港では初となる、高純度バイオディーゼル燃料「B100燃料」の 空港内作業車両での実証実験を開始

JALは、CO₂排出量削減への取り組みの一環として、宮崎空港配備の空港内作業車両「トーイングトラクター^(*)」に高純度バイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」を使用する実証実験を、2023年5月22日より1年間にわたり開始します。^(*) 空港制限区域内にて航空貨物やお客さまの手荷物の運送用コンテナを牽引する車両

高純度バイオディーゼル燃料(リーゼル)は、廃食用油・植物油を原料とするバイオ燃料のうち、脂肪酸メチルエステルの精製純度を99.9%という極限まで高純度・高品質化したバイオディーゼル燃料です。

「B100燃料」は家庭や地域の飲食店で排出される廃食用油などを精製して地域で使用する、地産地消の循環型エネルギーで、軽油と比べて1リットル当たり2.62kgのCO₂排出量削減^(*)の効果が見込めます。

^(*)「B100燃料」の原料の一部である植物油は、植物の成長過程において、光合成を行うことでCO₂を吸収しているため、カーボンニュートラルの概念で燃焼時のCO₂排出量はプラスマイナスゼロとなることから得られる削減量です。

本実証実験では、専用のトーイングトラクターを1台設定し、年間を通して「B100燃料」のみを使用することで、エンジンへの影響などを検証し、安定運用に向けた知見を得ることを目的としています。なお、実施にあたっては、一般社団法人高純度バイオディーゼル燃料事業者連合会^(*)の会員である株式会社宮崎環境開発センター(宮崎県宮崎市)が「B100燃料」の製造・供給を、株式会社日米商会(宮崎県宮崎市)が給油を担当します。^(*) 高純度バイオディーゼル燃料の製造量拡大・普及・利用推進を目指し結成された団体。全国約60社の参加により運営(燃料製造業、建設業、廃棄物処理業、石油流通業等が加盟)

JALは、今後も空港内車両のCO₂排出量削減に向けた取り組みを推進し、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

1. 期間

2023年5月22日～2024年5月21日(1年間)

2. 対象空港

宮崎ブーゲンビリア空港(宮崎県宮崎市赤江)

3. 対象車両

宮崎空港配備 JALトーイングトラクター 1台

4. 実験内容

高純度バイオディーゼル燃料(リーゼル)濃度100%の「B100燃料」をトーイングトラクターに使用

5. 問い合わせ先

日本航空株式会社 宮崎支店(0985-50-3327)

